

六年生 詩

(教科書 東書)

春に

谷川俊太郎

一時間扱い (六〇分必要かも) 二、六とく中心に

<区画> 三区画 (一行目、七行目、一五行目)

二とく

〇 題目 (春に 谷川俊太郎 と板書)

- ① みなさんが、春から連想することは。
- ② この詩で「春に」なると感じることは。
(もやもやした気もち⇨この気もちは…)
- ③ 「この気もち…」の何数は。(板書 工夫)
- ④ この詩には、工夫がある、どこに。
(繰り返し) この気もち…: …だ…ある
韻 …だ…ある よどみ・渦まき・
せめぎあい …たい
五音・七音 なんだろう 手を…

◎ ひびき

- ⑤ この気もちを二つ観察したが。
- 1 エネルギーの流れ (感覚・五感)
- 2 心のダム (内面・悩み)
- 3 …したい (希望でも…)

〇 手引き

(全文視写は無理なのでプリント配布)
指示 「この気もち」を考え、用紙に視写

六とく

〇 語義・区分

- ① 難しい言葉は。
エネルギー つつく しかし・しかも
よどみ・渦まき・せめぎあい もどかしい
- ② 区分は。 1 三つ 2 四つ 3 五つ
- ◎ 心
- ③ この気もちの正体は。(自然のエネルギー)

